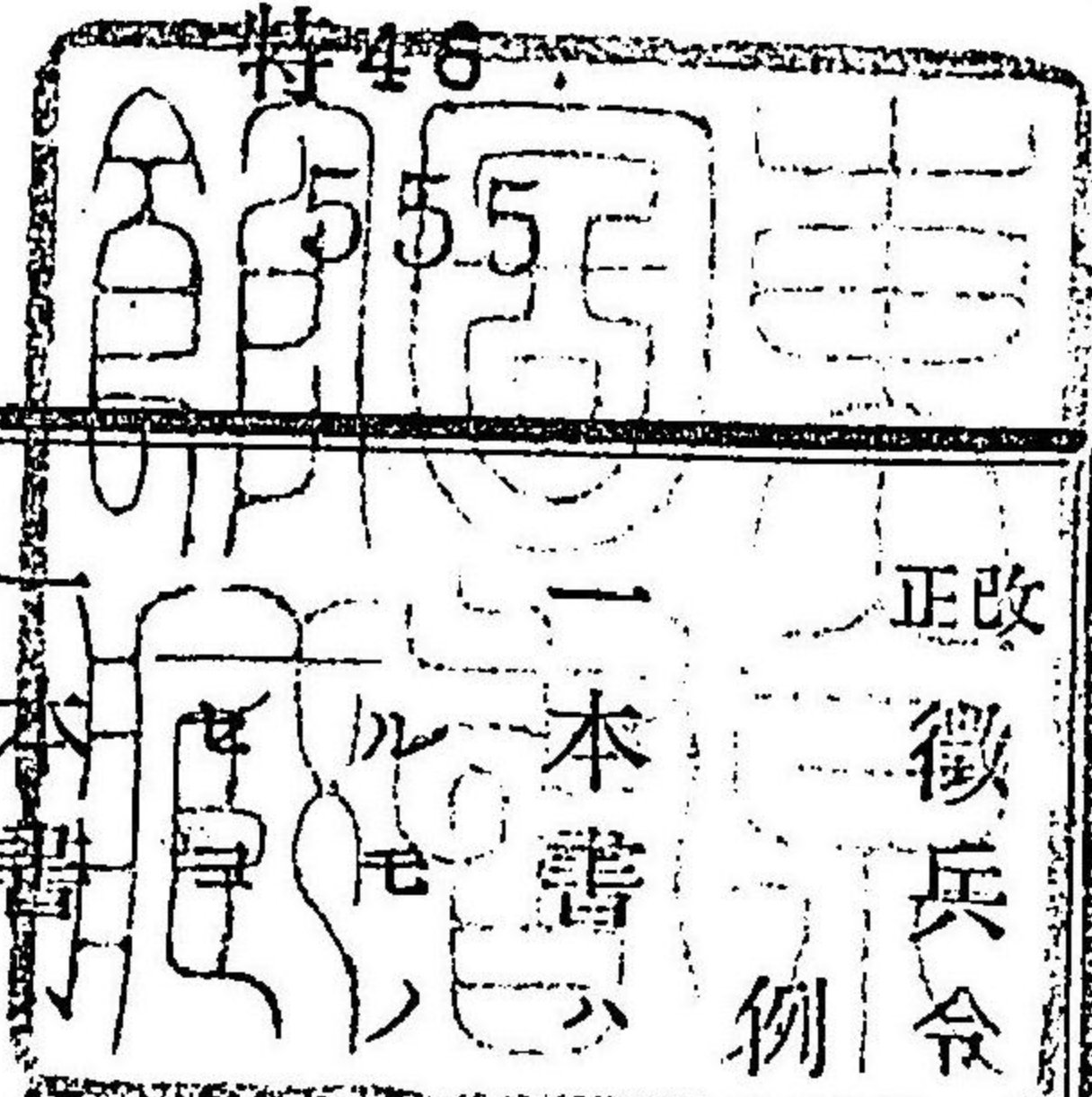


青柳敏吉君注釋

改正
徵兵令注釋全

靜霞堂藏版

改正 徵兵令註釋 例言



一本書ハ專ラ解シ易キヲ主ト爲ス故ニ行文重複ニ涉
ルモアリ鄙俚ヲ免カレサルモノアリ看者之ヲ諒

一本書ニ余カ記憶スルモノト信スル所ノモノヲ輯メ
テ之ヲ爲ス其余カ記憶スルモノ信スル所ノモノ固
ヨリ誤謬ナキ能ハス且勿卒ノ編輯ニ係ルヲ以テ或
ハ遺漏ナキヲ保セス此ノ如キハ他日訂補スル所ア
ル可シ

一本書中刑法ヲ援用シテ單ニ刑法ト云ヒ普通刑法ト

云フモノアリ行文ノ便ニ從フ
 一卷尾ニ年齢計算早見表ヲ附シ徵兵ニ關スル年齢計算ノ便ニ供ス
 一例言ノ終ニ於テ本令改正ノ大体ヲ左ニ掲ケ以テ看者ニ便ス

陸海軍ノ徵兵令ト爲ス事○豫備兵役及ヒ後備兵役期限各一個年ヲ増ス事○免役ノ諸條ヲ廢スル事○現役志願者ヲ許スノ制ヲ設クル事○一個年壯兵ノ制ヲ設クル事○免役料ヲ廢スル事○罰則ヲ設クル事

明治十七年二月

編者識

改正 徵兵令註釋目錄

第一章	總則	自第七條
第二章	服役	自第十五條
第三章	免除及ヒ猶豫	自第二十六條
第四章	徵兵區及ヒ抽籤	自第二十九條
第五章	補充員及ヒ豫備徵員	自第三十三條
第六章	雜則	自第四十五條

改正 徵兵令註釋

第一章 總則

青柳 敏吉 著

總則ハ各兵役ノ時期兵役ノ區別及ヒ服役期限等
六章全編ニ關スル原則ヲ掲グルモノナリ

第一條 全國ノ男子年齡滿十七歲ヨリ滿四十歲迄ノ
者ハ總テ兵役ニ服ス可キモノトス

夫レ兵備ハ一國ノ安寧幸福ヲ維持スルニ於テ缺ク可
カラサル要具ナレハ國民ノ義務トシテ相當ノ兵役ニ
服セサル可カラス則チ一國ノ安寧幸福ヲ維持スルハ
人々各自ノ安寧幸福ヲ維持スルノ基ヒタレハナリ是
レ徵兵法ノ因テ起ル所以ニシテ乃チ這條ハ本令全編

ノ精神タルヲ知ルヘキナリ

第二條 兵役ハ陸軍海軍共ニ常備兵役後備兵役及ヒ國民兵役トス

本條ハ第一條ニ從ヒ兵役ノ種類ヲ別ナテ常備兵役後備兵役國民兵役ノ三トナス
常備兵役ハ第三條ニ掲クル如ク更ニ之ヲ別ナテ現役豫備役ノ二種トス其現役兵ハ陸軍ニ在テハ常ニ鎮臺營所分營ノ地ニ駐屯シ不虞ヲ警メ緩急ニ應シ四出圓轉シテ方面ノ寇賊ニ禦ルニ備ヒ海軍ニ在テハ常ニ水兵本營水兵分營軍艦ニ在リ主トシテ外寇ニ禦ルニ任シ其豫備兵ハ所謂現役兵ノ豫備ニシテ常ニ郷里ニ在テ之ニ服シ第十三條ニ掲クル如ク戰時若クハ事變ニ際

シ召集スルモノトス

後備兵ハ常ニ郷里ニ在テ之ニ服シ第十四條ニ掲クル如ク戰時若クハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召集スルモノトス

國民兵ハ平常一般ノ人民ト異ナルコトナシ第十五條ニ掲クル如ク戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニアラサレハ召集スルコトナキモノトス

陸軍兵中近衛兵アリ此兵ハ輦下ヲ護衛シ特旨ニアラサルヨリハ他ノ徵發ニ應スルコトナキモノトス

第三條 常備兵役ハ別ナテ現役及ヒ豫備役トス其現役ハ三個年ニシテ年齡滿二十歳ニ至リタル者之ニ

服シ其豫備役ハ四個年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

年齡滿二十歳ヲ過キ即チ第十七條ニ當リ第二豫備徵員トナリタル後六個年間ニ該條ニ掲グル資格ヲ失ヒ第十八條(第三項)生徒ニシテ二個年以上ノ課程ヲ卒リタルモノヲ除ク)第二十一條ニ當リ七個年間ニ其事故止ニ及ヒ第十九條ニ當ルモノニシテ徵集ニ應スルモノ、現役豫備役年限ハ仍ホ本條ニ同シ

常備兵役年期ノ計算ハ第四十二條ニ掲グル如ク現役ハ其入營年ノ四月二十日(第四十一條ニ當ルモノハ入營ノ當日)ヨリ起算シ滿三個年トシ豫備役ハ其定例編入スヘキ年ノ四月二十日ヨリ起算シ滿四個ケ年トス

四

第四條 後備兵役ハ五個年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

後備兵役年期ノ計算ハ第四十二條ニ掲グル如ク其定例編入スヘキ年ノ四月二十日ヨリ起算シ滿五個年トス

第五條 國民兵役ハ年齡滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ者ニシテ常備兵役及ヒ後備兵役中ニ在ラサル者之ニ服ス

國民兵役ハ年齡滿十七歳ヨリ滿四十歳マテノモノニシテ即チ現役ニ徵集以前ノモノ(第三十條ノ補充員第三十一條ノ第一豫備徵員及ヒ第三十二條ノ第二豫備徵員モ含有ス)第十七條第十八條及ヒ第二十一條ニ當

五

ルモノニシテ終ニ徵集ニ應セサルモノ並ニ常備兵役
後備兵役定規ノ服役ヲ終リタルモノトス

第六條

各兵役ノ期限已ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變
ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アル
トキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延ス
トアルヘシ

戰時ハ全國ニ戒嚴ヲ宣告セシトキ事變ハ地方ヲ區畫
シ戒嚴ヲ宣告セシトキ又ハ政府若クハ軍衙ニ警報ノ
達シタルトキヲ云フ

臨時演習ハ尋常ノ操練ニアラスシテ旅團若クハ師團
以上ノ實地對敵ノ演習ヲ云フ

臨時觀兵ハ 行幸又ハ外國ノ帝王皇族等來朝スルコ

當リ敬禮ヲ表スル爲メ其地所在ノ全兵ヲ擧ケテ觀兵
式ヲ施行スルトキ等ヲ云フ

航海中ハ外國ヨリ歸朝若クハ特任ヲ帶ヒ遠航セシト
キ等ヲ云フ

外國駐劄中ハ外國派遣ノ我公使へ臨時警備兵ヲ附セ
ラレタルトキ若クハ戰後未タ凱旋ニ至ラサル場合等
ヲ云フ

第七條

重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スル

コトヲ許サス

重罪ノ刑ニ處セラレタルモノハ癡疾不具等ノ爲メ兵
役ヲ免除スルモノト大ニ其性質ヲ異ニシ兵役ヲ免除
スルニアラスシテ兵トナルヲ禁スルモノナリ

重罪ノ刑ニ處セラレタルモノハ刑法第三十二條ニ於テ既ニ兵籍ニ入ルノ權ヲ剝奪スト雖モ本令第一條ニ全國ノ男子年齢滿十七歳ヨリ滿四十歳マテノモノハ總テ兵役ニ服スヘキモノトストアルニ因リ持ニ之ヲ爰ニ掲クルモノナリ
重罪ノ刑ニ處セラレタルモノ刑法第六十三條及ヒ第六十四條ニ掲クル大赦特赦ニ依リ公權ヲ復スルトキハ本條ノ限リニアラス

第一章 服役

此章ハ總則ニ從ヒ兵役ニ服スル方法及ヒ常備兵後備兵國民兵服役中ニ係ル諸則ヲ掲ク

第八條 陸軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ

身材藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵及ヒ雜卒職工ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

身材藝能職業ニ從ヒ各兵雜卒職工ニ區別スルハ假令ハ體格最健全ニシテ視力清明ナルモノヲ砲兵ニ木工石工竹工船工等ノ職業ニ從事セシ者ハ工兵ニ馬匹ヲ使用スルニ慣レタルモノハ體格ニ依リ騎兵若シハ輜重輸卒ニ馬匹ヲ使用スルニ慣レ讀書算術ヲ能クスルモノハ輜重兵ニ火工鍛工銃工縫工靴工等ハ職工ニ採用スルカ如シ

抽籤ノ法ハ第二十六條乃至第二十九條ニ詳ナリ

海軍現役兵ハ海軍所要ノ人員ニ應シ沿海地方及ヒ

島嶼ノ人民ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵
火夫職工等ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以
テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規則ニ依リ就役スル
者ハ本令ノ限ニ在ラス

沿海地方及ヒ島嶼ノ人民ヲ調査シ海軍ニ適スル職業
ニ從ヒ水兵火夫職工ニ區別スルハ假令ハ海濱ノ壯丁
ニシテ舟楫波濤ニ慣レタルモノ或ハ商船ニ在テ水夫
ノ業ヲ執リタルモノハ水兵ニ火夫ノ業ヲ執リタルモ
ソハ火夫ニ船工木工鍛工塗工桶工縫工等ハ職工ニ採
用スルカ如シ
海軍兵ハ一ニ徵兵令ニ依ルニアラス海軍志願兵徵募
規則ニ依リ壯兵ヲモ徵募スルヲ以テ此規則ニ依リ就

役スルモノハ總テ本令中ノ規則ヲ以テ取扱フコトナ
シ

海軍ハ職工ト雖モ沿海地方及ヒ島嶼ヲ限り徵集スル
ハ葦山野ニ生育シタルモノハ凡二三年間水上ニ在ル
モ激浪怒濤艦船掀舞ノ境ニ立ツトキハ其業ヲ爲スコ
ト能ハサルノ經驗ニ因ルモノナリ

第九條 陸軍雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短
縮スルコトアルヘシ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減ス
ルコトナシ

陸軍雜卒ノ現役期限ハ軍制ノ都合ニ因リ假令ハ輜重
輸卒ハ六ヶ月看護卒ヲ一個年トスルコトアリ然ルト
キハ輜重輸卒ハ六年六個月看護卒ハ六個年豫備役ニ

服ス〜キモノトス

第十條 年齢二十歳ニ滿タスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ現役ヲ志願スルコトヲ得

年齢滿十七歳以上二十歳未滿ノモノヲシテ練リアケ現役ニ服役スルヲ得セシムルモノハ滿期後間斷ナシ學藝若クハ職業ヲ修メント欲スルモノヲシテ其目的ヲ達セシムルニアリ
年齢滿十七歳以上ニ至ルトキハ未ダ第三十四條ノ届出以前ノモノト雖モ本條ノ志願者タルコトヲ得ヘシ
年齢十七歳以上ト定メタルモノハ國民兵役ノ年齢ニ基クモノナリ
服役年限ハ第三條第四條ノ規則ニ從ヒ常備兵現役三

個年豫備役四個年後備兵役五個年トス其陸軍雜卒ニ相當スルモノハ現役期限ヲ短縮スルコトアルコト第九條ノ如シ

第十一條 年齢十七歳以上滿二十七歳以下ニシテ官立府縣立學校小學校ヲ除クノ卒業證書ヲ所持シ服役中食料被服等ノ費用ヲ自辨スル者ハ願ニ因リ一個年間陸軍現役ニ服セシム

國民皆兵トナルニ至テハ教育上ニ於テ特例ヲ與フルコト必要ナリ然レトモ兵役ヲ免除スルカ如キ無主義ノ特例ヲ與フ可カラス故ニ本條ハ可及的普通ノ教育ト軍事上ノ教育トヲ結合シ且普通ノ教育ヲシテ軍事上ノ教育ニ裨補スル所アラシムルヲ要スル爲メニ設

クルモノナリ
 年齢満十七歳以上ニ至ルトキハ未タ第三十四條ノ届
 出以前ノモノト雖モ本條ノ志願者タルコトヲ得ヘシ
 年齢満十七歳以上満二十七歳以下ト定メタルハ國民
 兵役ノ年齢及ヒ常備兵役期限ニ基クモノナリ
 官立學校ハ文部省所轄其他諸省ノ設立ニ係ルモノ府
 縣立ハ其費用地方稅ヨリ支辨シ府縣廳ノ管轄ニ屬ス
 ルモノナリ

其技藝ニ熟達スル者ハ若干月ニシテ歸休ヲ命スル
 コトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコト
 ナシ

食料被服等ノ費用ヲ自辨シ陸軍現役ニ服シ技藝ニ熟

達スル者ハ一個年ニ滿タサルモ郷里ニ歸還ズルヲ許
 スコトアリト雖モ現役期限ハ之ヲ減スルコトナク郷
 里ニ在テ保ツヘキモノトス
 一個年未滿ニシテ歸休ヲ命セラレタルモノト全一個
 年屯營ニ在ルモノトト問ハス總テ常備兵役ノ全期ヲ
 保ツヘキモノニシテ即チ現役期限一個年ヲ過クノ後
 六個年間豫備役ニ服スヘキモノトス

第十二條 現役中殊ニ技藝ニ熟シ行狀方正ナル者及

ヒ官立公立學校小學校ヲ除クノ歩兵操練科卒業證書ヲ所
 持スル者ハ其期末タ終ラスト雖モ歸休ヲ命スルコ
 トアルヘシ

現役兵中第十一條第二項ニ掲クルモノヨリ一層技藝

上達シ且行狀正シク能ク軍人ノ態度ニ適フモノ及ヒ
 官立公立學校ノ(小學校ヲ除ク)ノ步兵操練科卒業證書
 ナ所持スルモノハ三個年ニ滿タサルモ郷里ニ歸還ス
 ルヲ許スコトアリト雖モ現役期限ハ減スルコトナク
 郷里ニ在テ保ツヘキモノトス
 公立學校(小學校ヲ除ク)ハ府縣立府縣立ノ註釋前ニ見
 ヲ及ヒ郡區町村ノ協議費ヲ以テ設立シタル師範學校
 中學校農學校商業學校職工學校醫學校等ヲ云フ

第十三條 豫備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集

シ常備隊ヲ充實シ又補充隊ニ編制ス平常ニ在テハ
 技藝復習ノ爲メ毎年一度六十日以内之ヲ召集シ又
 兵員實查ノ爲メ毎年一度點呼ヲ爲ス但毎軍豫備兵

ハ技藝復習ノ爲メ召集スルコトナシ

豫備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ鎮臺營所分營水兵本
 營水兵分營或ハ適宜ノ地ニ召集シ常備隊兵ノ戰鬥ニ
 適スヘキ人員ニ至ルマテハ常備隊ニ編入シ其剩餘ヲ
 以テ補充隊ニ編制スルモノトス
 時宜ニ因テハ人員ヲ限リ召集シ常備隊ニ編入シ該隊
 兵ノ戰鬥ニ適スヘキ人員ニ充ルヲ以テ足レリトスル
 コトアルヘシ
 補充隊ハ常ニ之ヲ置クモノニアラス戰時若クハ事變
 ニ際シ編制シ逐次戰鬥隊ノ缺員ヲ補フモノナリ
 技藝復習ハ常備隊屯營或ハ適宜ノ地ニ召集シテ施行
 ス

點呼ハ戰時若クハ事變ニ際シ速ニ召集スルニ容易ナルヲ要スル爲メ兵員ノ實查ヲ爲スモノニシテ府縣内最寄ヲ分テ適宜ノ地ニ召集シ施行スルモノトス
 豫備兵中判任以上ノ官吏戸長教導職(試補ヲ除ク)官立公立學校教員府縣會議員及ヒ官立府縣立醫學學校ノ卒業證書ヲ所持シテ醫術開業ノモノハ第二十條ニ揭クル如ク復習點呼ノ爲メ召集スルコトナク戰時若クハ事變ニ際シテハ太政官ノ決裁ニ依リ召集スルコトアルヘシ

第十四條 後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召集シ常備兵ノ後援ト爲ス平常ニ在テ其技藝復習ノ爲メニ召集シ及ヒ兵員實查ノ爲メニ點

呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

後備兵ハ常備兵ノ後援トナスモノニシテ戰時若クハ事變ニ際シ鎮臺營所分營水兵本營水兵分營或ハ宜適ノ地ニ召集シ別ニ一團隊ニ編制シテ戰線ニ臨ムモノナリ
 戰時若クハ事變ニ際シ豫備兵ヲ召集スルモ後備兵ヲ召集スルト否トハ時宜ニ因ルヘシ
 後備兵ノ技藝復習ハ適宜ノ地ニ於テス點呼ハ第十一條ノ豫備兵ト異ナルコトナシ
 後備兵中判任以上ノ官吏戸長教導職(試補ヲ除ク)官立公立學校教員府縣會議員及ヒ官立府縣立醫學學校ノ卒業證書ヲ所持シテ醫術開業ノモノハ第二十條ニ揭ク

ル如ク復習點呼ノ爲メ召集スルコトナシ戰時若クハ
事變ニ際シテハ太政官ノ決裁ニ依リ召集スルコトア
ルヘシ

第十五條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ
召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限り之ヲ召集シ隊
伍ニ編制シテ軍役ニ充ツ

國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際スト雖モ後備兵ヲ召集
シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニアラサレバ召集スルコト
ナキモノニシテ概テ全國大擧ノ時ニ當リ召集スルモ
ノトス

第三章 免除及ヒ猶豫

此章ハ兵役ヲ免除スルモノ及ヒ徵集或ハ召集猶

豫ニ關スル諸則ヲ掲ク

第十六條 兵役ヲ免除スルハ癡疾又ハ不具等ニシテ
徵兵檢査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

徵兵檢査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサルモノハ終身兵役
ニ服スルヲ免除スルモノトス

第十七條 左ニ掲クル者ハ徵集ヲ猶豫ス但其年補充
員不足スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ
要スルトキハ之ヲ徵集ス

本條ハ兄弟同時徵集ニ應スルモノ或ハ現役兵ノ兄弟
又ハ公務ノ爲メ負傷シ若クハ疾病ニ罹リ免役トナリ
タルモノ、兄弟其他人情世態止ムヲ得サルモノ、徵
集ヲ猶豫スルノ特別ナリ

左ノ項目ニ相當スルモノハ徵集ヲ猶豫スト雖モ若シ其年ノ徵員不足シ第二十五條第一項但書ニ據リ步兵ヲ他ノ師管其他ノ諸兵ヲ他ノ軍管ヨリ之ヲ補フモ第三十條但書ニ掲クル補充員ノ現役徵員五分ニヨリ少ナキトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ夥多ノ兵員ヲ必要トスルトキハ假令ハ第一項ニ相當スルモノヲ徵集シ又要スルトキハ第二項ニ相當スルモノヲ徵集シ逐次第五項ニ相當スルモノヲ徵集シ或ハ第一項ニ相當スルモノヨリ第五項ニ相當スルモノヲ悉ク同時ニ徵集スルコトアルヘシ

左ノ各項ニ相當スルモノニシテ其年徵集ノ命ナキモノハ第三十二條ノ規則ニ從フ

左ノ各項ニ相當スルモノ其資格ヲ失ヒタルトキノ届出方第三十六條ニ詳ナリ

第一項 兄弟同時ニ徵集ニ應スル者ハ内一人及ヒ現役兵ノ兄或ハ弟一人

兄弟同時ニ徵集ニ應スルモノ、内一人ハ徵集ヲ猶豫スト雖モ假令ハ兄弟二人徵兵ニ當ルモノニシテ其徵集ニ屬スヘキモノ徵兵檢査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサルモノナルトキハ他ノ一人ハ徵集ニ應スヘシ又兄弟三人徵兵ニ當ルモノニシテ其徵集ニ屬スヘキ二人ノ内兵役ニ堪ヘサルモノアルモ他ノ一人ハ徵集ヲ猶豫スヘシ二人共ニ兵役ニ堪ヘサルトキハ徵集ニ應スヘシ三人以上皆此

例ニ同シ

現役兵ノ兄或ハ弟一人ハ徵集ヲ猶豫スト雖モ徵集ニ應シ入營スヘキ年ニ其兄或ハ弟現役滿期トナルモノナルトキハ本項ノ例ニ據ルヲ得ス現役兵ハ尋常服役志願服役再服役及ヒ屯營艦船ニ在ルト郷里ニ歸休シ居ルモノトノ區別ナシ

第二十二條ニ掲クル戸主嗣子承祖ノ孫ハ本條ニ照シ徵集ヲ猶豫スルノ限コアラスト雖モ右ハ戸主嗣子承祖ノ孫タルノ資格ヲ以テ徵集ヲ猶豫セサルモノニシテ兄弟同時ナルトキ及ヒ其兄或ハ弟現役ニ在ルトキハ皆本項ノ例ニ據ル

兄弟同時徵兵ニ當ルモノ及ヒ現役兵ノ兄或ハ弟

ハ同戸藉中ノモノニシテ分家或ハ他家ノ養子若シハ相續人トナリタルモノハ此例ニ據ルヲ得ス故ニ一旦本項ニ相當シ徵集猶豫ノ後七個年間は分家或ハ他家ノ養子若シハ相續人トナル等戸籍ヲ異ニスルトキハ其權利他ノ兄弟ニ移轉ス尤七個年ヲ過ルトキハ其權利他ノ兄弟ニ移轉スルコトナシ(第三十二條ヲ參照スヘシ)

本項ノ兄或ハ弟ハ實子孫養子孫ノ區別ナシ

第二項 現役中死没又ハ公務ノ爲メ負傷シ若クハ疾病ニ罹リ免役シタル者ノ兄或ハ弟一人

現役兵ハ尋常服役志願服役再服役及ヒ屯營艦船ニ在ルト郷里ニ歸休シ居ルモノトノ區別ナシ

死没ハ現役中ニ限ルト雖モ公務ノ爲メ若クハ公務ニ起因シ疾病ヲ醸シ免役トナルモノハ現役豫備役後備役ニ在ルノ區別ナシ

第二十二條ニ掲クル戸主嗣子承祖ノ孫ハ本條ニ照シ徵集ヲ猶豫スルノ限コアラスト雖モ右ハ戸主嗣子承祖ノ孫タル資格ヲ以テ徵集ヲ猶豫セサルモノニシテ其兄或ハ弟現役中死没又ハ公務ノ爲メ負傷シ若クハ疾病ニ罹リ免役トナリタルモノナルトキハ皆本項ノ例ニ據ル

現役中死没又ハ公務ノ爲メ負傷シ若クハ疾病ニ罹リ免役トナリタルモノ、兄或ハ弟ハ同戸籍中ノモノニ限ルモノニシテ分家或ハ他家ノ養子若

クハ相續人トナリケルモノハ此例ニ據ルヲ得ス故ニ一旦本項ニ相當シ徵集猶豫ノ後七個年間に分家或ハ他家ノ養子若クハ相續人トナル等戸籍ヲ異ニスルトキハ其權利他ノ兄弟ニ移轉ス尤七個年ヲ過ルトキハ其權利他ノ兄弟ニ移轉スルコトナシ(第三十二條ヲ參照スヘシ)

本項ノ兄或ハ弟ハ實子孫養子孫ノ區別ナシ

第三項 戸主年齢六十歳以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

嗣子ハ父ヨリ家名ヲ譲リ受クヘキモノ、稱ニシテ承祖ノ孫ハ祖父ヨリ直ニ家名ヲ譲リ受クヘキモノ、稱ナリ其嗣子承祖ノ孫ハ實子孫養子孫ノ

區別ナシ

家名ヲ讓リ受クヘキモノト雖モ尊族或ハ弟等ヲ以テ定メタル相續人ハ本項ニ含有セス

第四項 戸主廢疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計

ヲ營ムコト能ハサル者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

本項ノ戸主ハ年齢六十歳前後ヲ問ハス其嗣子承祖ノ孫ハ實子孫養子孫ノ區別ナシ

廢疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルモノハ其家ノ富貧ヲ問ハス其廢疾不具等ノ爲メニ自ラ家生ヲ治ムルコト能ハサルモノヲ云フ以下廢疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハストアルモノ皆之ニ同シ

第五項 戸主

第十八條 左ニ掲クル者ハ其事故ノ存スル間徵集ヲ

猶豫ス

本條ハ學事一般ノ教育ニ關シ其他事故ニ依リ徵集ヲ猶豫スルノ特別ナリ

左ノ各項ニ相當スルモノニテ七個年間其事故存スルトキハ第三十二條ノ規則ニ從フ

左ノ各項ニ相當スルモノ其事故止ミタルトキノ届出方第三十六條ニ詳ナリ

第一項 教正ノ職ニ在ル者

神道及ヒ各宗派教導職權少教正以上者ノヲ云フ

第二項 官立府縣立學校小學校ヲ除クノ卒業證書ヲ所

持スル者ニシテ官立公立學校教員タル者

本項ノ公立學校ハ府縣郡區若クハ町村ノ設立ニ係ル諸種ノ學校小學校ヲモ含有ス

第三項 官立大學校及ヒ之ニ準スル官立學校本科生徒

官立大學校ハ東京大學工部大學校等ニシテ又之ニ準スル官立學校ハ農商務省所轄駒場農學校札幌農學校等ヲ云フ

陸軍大學校學生ハ武官ニシテ現役艦員ニ在ルモノタルヲ以テ本項官立大學校生徒ト同視ス可キモノニアラス

第四項 陸海軍生徒海軍工夫

陸軍生徒ハ士官學校生徒教導團生徒蹄鉄工生徒等ニシテ海軍生徒ハ兵學校生徒機關學校生徒等ナリ海軍工夫ハ兵器局及ヒ造船所等ノ定雇工夫ヲ云フ

第五項 身幹未タ定尺ニ滿タサル者

兵種ニ依リ定尺各異ナリト雖モ本項ハ各兵種中最低ノ尺度ニ達セサルモノヲ云フ

第六項 疾病中或ハ病後ノ故ヲ以テ未タ勞役ニ堪ヘサル者

第七項 學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者

本項ハ宗學修業ノモノヲ含有ス

第八項 禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ刑事被告人ト

ナリ裁判未決ノ者

罰金拘留科料ニ該ルヘキ被告人トナリ裁判未決ノモノ及ヒ民事裁判未決ノ原告人被告人ハ勿論本項ノ例ニ據ルヲ得ス

第九項 公權停止中ノ者

本項ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ刑期間及ヒ輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付セラレ其期限間公權ヲ行フコトヲ停止セラレタルモノトス主刑ヲ免シ止テ監視ニ付セラレタルモノ亦同シ
刑法第四十一條ニ據リ行政ノ處分ヲ以テ假ニ監視ヲ免セラレタルモノト雖モ監視ノ期限間ハ仍ホ本項ニ相當スルモノトス

第十九條 官立府縣立學校小學校ニ於テ修業一個年

以上ノ課程ヲ卒リタル生徒ハ六個年以内徵集ヲ猶豫ス

本條ノ生徒ハ第三十三條ニ掲クル第十八條第三項ノ生徒ニシテ二ケ年以上ノ課程ヲ卒ルトキハ年齡滿二十七歳マテ第一豫備徵員ト爲スノ比コアラオ六ケ年以内ニ全科卒業ノモノ及ヒ六ケ年ヲ過ルモ未タ卒業セサルモノハ共ニ徵集スヘキモノトス
徵集猶豫ノ期限ヲ六ケ年ト定メタルモノハ第十八條第三項ニ掲クルモノ、外ハ年齡二十五歳ニ至ルマテ卒業シ得サルモノナキヲ普通トスレハナリ
官立府縣立學校(小學校ヲ除ク)ニ入り在校一ケ年ヲ過

キサルモ一ケ年ノ課程ヲ卒リタル以上ノ生徒タルト
 キハ徴集ヲ猶豫ス
 本條ニ當ル生徒六ケ年以内ニ於テ官立大學校及ヒ之
 ニ準スル官立學校本科生徒ニ轉スルモノハ第十八條
 第三項ニ據リ徴集ヲ猶豫ス其他本條ノ資格ヲ變シ更
 ニ第十七條第十八條及ヒ第二十一條ニ當ルモノハ該
 條ニ據リ徴集ヲ猶豫ス
 第十七條第十八條及ヒ第二十一條ノ資格ヲ變シ更ニ
 本條ニ當ルモノハ通シテ六ケ年以内徴集ヲ猶豫ス
 本條官立學校生徒ハ官立大學校及ヒ之ニ準スル官立
 學校豫科生徒ニシテ一ケ年以上ノ課程ヲ卒リタルモ
 ノヲ含有ス

官立公立學校(小學校ヲ除ク)卒業ノモノニシテ步兵操
 練科卒業證書ヲ所持スルトキハ現役兵ニ當籤スルモ
 第十二條ノ如ク其期限未滿ニシテ歸休ヲ命スルコト
 アリ又服役中食料被服等ノ費用ヲ自辨スルトキハ步
 兵操練科卒業證書ヲ所持スルト否トヲ問ハス第十一
 條ノ如ク一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得
 本條ニ當ルモノ其事故止ミタルトキノ届出方第三十
 六條ニ詳ナリ

第二十條 左ニ掲クル者ハ豫備兵ニ在ルト後備兵ニ
 在ルトヲ問ハス復習點呼ノ爲メ召集スルコトナシ
 但戰時若クハ事變ニ際シテハ太政官ノ決裁ヲ經テ
 召集スルコトアルヘシ

左ノ項目ニ當ルモノハ戰時若クハ事變アルトキト雖モ緩急ニ應ジ樞要缺クヘカラサルノ職ニ在ルト否トニ因リ太政官ノ決裁ヲ經テ假令ハ第一項中判任官第二項及ヒ第五項ニ當ルモノヲ召集シ其他ハ召集セサルコトアルヘシ

第一項 官吏^{判任}以上及ヒ戸長

郡區書記ハ本項ノ官吏ニ含有シ公立學校長及ヒ公立學校書記等准官等ノモノハ之ニ含有セス

第二項 教導職^{試補ヲ除ク}

神道及ヒ各宗派教導職權訓導以上ノモノ

第三項 官立公立學校教員

官立公立學校ノ卒業證書ヲ所持セサルモ官立學

校公立學校(小學校トモ)教員タルモノハ總テ本項ニ含有ス

第四項 府縣會議員

本項ハ府縣會議長及ヒ副議長ヲ含有ス

第五項 官立府縣立醫學校卒業證書ヲ所持シテ醫術開業ノ者

本項ハ獸醫ヲ含有ス

第二十一條 官省院府縣ニ於テ餘人ヲ以テ代フ可カラサル技術ノ職ヲ奉スル者ハ太政官ノ決裁ニ依テ徵集ヲ猶豫スルコトアル可シ

技術ノ職ヲ奉スルモノト雖モ其人ヲ要セサレハ一事業ノ盛衰ニ關スル如キモノニアラサレハ容易ニ徵集

ヲ猶豫スルコトナシ

技術ハ切密測量工業等凡テ有形ノ藝能ヲ云フ

技術ノ職ヲ奉スルモノハ判任以上等外吏准官吏等ノ區別ナシ

本條ニ當リ七個年ヲ經過スルトキハ第三十二條ノ規則ニ從フ

本條ニ當ルモノ事故止ミタルトキノ届出方第三十六條ニ詳ナリ

第二十二條 左ニ掲クル者ハ第十七條ニ照シテ徵集ヲ猶豫スルノ限ニ在ラス

本條ハ第十七條ノ特典ヲ濫用スルヲ防キ併セテ該條ノ精神ヲ明カナラシムルニ在ルナリ

左ノ項目ニ相當スルモノハ第十七條第三項乃至第五項ニ據リ徵集ヲ猶豫スルノ限ニアラスト雖モ其兄或ハ弟同時徵兵ニ當ルトキハ第十七條第一項ノ例ニ據ル又其兄或ハ弟現役ニ在リ或ハ現役中死没又ハ公務ノ爲メ負傷シ若クハ疾病ニ罹リ免役トナルモノナルトキハ前嗣子承祖ノ孫更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫ノ内一人第十七條第一項及ヒ第二項ニ據リ徵集ヲ猶豫ス

第一項 附籍戸主及ヒ附籍戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

附籍ハ籍ヲ他ニ附托シ獨立シテ一戸籍ヲナササルモノヲ云フ

第二項 廢疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營

ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ嗣子承祖ノ孫若クハ相續人ヲ罷メ更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫

廢疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルコトアラス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルコトアラサル嗣子ヲ廢シ更ニ定メタル嗣子、承祖ノ孫ヲ廢シ更ニ定メタル嗣子、相續人ヲ廢シ更ニ定メタル嗣子、承祖ノ孫ヲ廢シ更ニ定メタル承祖ノ孫、相續人ヲ廢シ更ニ定メタル承祖ノ孫ハ其戸主即チ父祖父年齢六十歳以上或ハ廢疾不具等ニシテ一家ノ生計ヲ

營ムコト能ハス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノト否トチ問ハス皆本項ニ含有ス以上嗣子承祖ノ孫ハ廢シタルモノ更ニ定メタルモノ共ニ實子孫養子孫ノ區別ナシ

第三項 年齢六十歳未満ノ戸主廢疾又ハ不具等

ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ年齢六十歳以上ニシテ其跡ヲ繼キタル戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

年齢六十歳未満ノ戸主廢疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルコトアラス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニアラスシテ戸主ヲ罷メ年

齡六十歳以上ニシテ其跡ヲ繼キタル戸主其跡ヲ繼キタル以前ヨリ有スル子孫ヲ以テ定メタル嗣子承祖ノ孫及ヒ其跡ヲ繼キタル後出主若クハ他ヨリ貰受ケタル子孫ヲ以テ定メタル嗣子承祖ノ孫皆本項ニ含有ス六十歳未滿ニシテ其跡ヲ繼キタル後六十歳以上ニ至リタルモノ、前段ノ如キ嗣子承祖ノ孫亦同シ

第四項 分家シ又ハ絶家若クハ廢家ヲ再興シタル戸主及ヒ其戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

本項ノ戸主ハ分家シ又ハ絶家若クハ廢家ヲ再興シタル初代ノ戸主ヲ指ス
本項ノ嗣子或ハ承祖ノ孫ハ分家又ハ絶家若クハ

廢家再興前出生若クハ他ヨリ貰受ケタルモノト分家又ハ再興後出生若クハ他ヨリ貰受ケタルモノ區別ナシ
分家ハ財産ヲ分與スルト否トヲ問ハス家族ニシテ籍ヲ別チ一家ヲ立テタルモノ
絶家ハ全家或ハ單身ノ戸主死没シ定期限内ニ其跡ヲ繼クモノナク自然家名斷滅セシモノヲ云フ
廢家ハ戸主家族ヲ携帶シ若クハ單身ノ戸主其家名ヲ廢シ他ノ養子相續人或ハ入夫トナル等ノモノヲ云フ
廢家再興ハ其廢シタル戸主及ヒ其家族又ハ他ノモノニシテ再興シタルノ區別ナシ

第五項 嗣子承祖ノ孫失踪シテ五個年ヲ經サル者ノ跡ニ定メタル嗣子承祖ノ孫

失踪シテ五個年ヲ經過シタル嗣子承祖ノ孫ヲ廢シ更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫ハ失踪ノ嗣子承祖ノ孫廢疾不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルモノニアラス又重罪ノ刑ニ處セラレタルモノニアラスト雖モ更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫ハ本條第二項ニ含有セス故ニ其戸主年齢六十歳以上ナルトキ又ハ廢疾不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノナルトキハ第十七條第三項若クハ第四項ニ據リ徵集ヲ猶豫ス

第六項 第二項第三項第四項ニ當ル嗣子或ハ承

祖ノ孫ニシテ戸主廢疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非ラスシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戸主

第三項第四項ニ當ル嗣子承祖ノ孫ハ戸主即チ父若クハ祖父死没又ハ廢疾不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレル主ヲ罷メタル跡ヲ繼キ戸主トナルトキハ第十七條第五項ノ戸主ニ含有シ第二項ニ當ル嗣子承祖ノ孫ハ前嗣子承祖ノ孫ヲ廢シタル後戸主死没又ハ廢疾不具トナリ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハス

或ハ重罪ノ刑ニ處セラレ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼キ
タルモノニアラサレハ第十七條第五項ニ含有セ
ス

第七項 年齢六十歳未満ノ者癡疾又ハ不具等ニ

シテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハス或ハ重罪ノ
刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ其跡
ヲ繼キタル戸主

年齢六十歳未満ノモノ癡疾不具等ニシテ一家ノ
生計ヲ營ムコト能ハス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレ
戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戸主及ヒ其癡疾不具
等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハス或ハ重罪
ノ刑ニ處セラレタルモノハ再三戸主ヲ罷メタル

モノト雖モ其跡ヲ繼キタル戸主ハ第十七條第五
項ニ據リ徵集ヲ猶豫ス

第八項 嗣子承祖ノ孫又ハ相續人癡疾又ハ不具

等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非
ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸
主ノ死亡跡若クハ戸主ヲ罷メタル跡ヲ繼カス
他ノ者ニシテ其跡ヲ繼キタル戸主

癡疾不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサ
ルモノ或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノ戸主ヲ
罷メ癡疾不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能
ハサルニアラス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ
アラサル嗣子承祖ノ孫又ハ相續人其跡ヲ繼カス

他ノモノニシテ其跡ヲ繼キタルモノハ本項ニ含有ス
 嗣子承祖ノ孫又ハ相續人癡疾不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルヲ以テ戸主ノ死亡跡若クハ戸主(六十歳以上)ヲ罷メタル跡ヲ繼カス他ノモノニシテ其跡ヲ繼キタル戸主ハ第十七條第五項ニ據リ徵集ヲ猶豫ス前戸主癡疾不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノ及ヒ失踪後五個年ヲ經過シタルモノナルトキハ年齡六十歳未滿ト雖モ亦同シ

第九項 戸主失踪シテ五個年ヲ經サル者ノ跡ヲ

繼キタル戸主

本項失踪ノ前戸主ハ年齡六十歳前後ノ區別ナシ故ニ失踪後五個年ヲ經過シタル跡ヲ繼キタル戸主ハ前戸主(失踪者)年齡六十歳以上及ヒ癡疾不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニアラス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノニアラスト雖モ第十七條第五項ニ據リ徵集ヲ猶豫ス單身ノ戸主失踪後五個年ヲ經過スト雖モ年齡既ニ八十歳ヲ過キ戸籍ヲ剛除シタル後其家名ヲ襲續セシモノハ第四項絶家再興ノ戸主ニ含有ス(明治六年第百七十七号布告ヲ參照スヘシ)

第二十三條 第十八條第一項第二項第三項第四項

陸海

軍生徒 第十九條第二十一條ニ當ル者ト雖モ第三十五條ニ示シタル徵兵各自届出期限即チ九月十六日以後ニ係ル者ハ徵集ヲ猶豫スルノ限ニ在ラス

本條ハ徵兵各自届出後單ニ第十八條第一項乃至第四項(陸海軍生徒ヲ除ク)第十九條第二十一條ニ當ルモノ、謂ヒニシテ其各自届出ノ節第十九條ニ當ル生徒ニシテ届出後卒業シ更ニ第十八條第二項又ハ第三項ニ相當スルモノハ該項ニ據リ徵集ヲ猶豫ス

第十七條ニ當リ届出後其資格ヲ失ヒ更ニ第十八條第一項乃至第四項第十九條第二十一條ニ相當スルモノ或ハ届出前ヨリ第十八條第一項乃至第四項ニ相當スル資格ヲ併有スルモノ亦同シ

第四章 徵兵區及ヒ抽籤

此章ハ兵ヲ徵集スルノ區畫及ヒ現役兵補充員ノ順序ヲ定ムル爲メニ抽籤ヲ行フノ諸則ヲ掲ク

第二十四條 徵兵區ハ軍管師管及ヒ府縣ノ區域ニ從フ其軍管ニ從フモノヲ軍管徵兵區ト爲シ師管ニ從フモノヲ師管徵兵區ト爲シ府縣ニ從フモノヲ府縣徵兵區ト爲ス但府縣ノ管地兩師管ニ分属スルモノハ師管毎ニ一區ヲ設ク

軍管及ヒ師管ノ徵兵區域ハ別表ニ掲ク
軍管ハ其管内ノ兵員略一軍ヲ興スニ足ルヲ以テ軍管ト名ツケ師管ハ略一師ヲ興スニ足ルヲ以テ師管ト名ツク故ニ軍團ノ兵ハ軍管ヨリ徵集シ師團ノ兵ハ師管

ヨリ徴集スルヲ以テ軍管ノ區域ニ從フモノヲ軍管徴兵區トシ師管ノ區域ニ從フモノヲ師管徴兵區トス又徴兵ノ編制ハ凡テ府縣ヨリ成リ立ツヲ以テ府縣ノ區域ニ從フモノヲ府縣徴兵區トス

本條前項但書ノ師管毎ニ一區ヲ設クハ府縣ノ管地甲師管ト乙師管ニ跨カルトキハ該府縣ノ徴兵區ヲ甲師管ニ屬スル部分ト乙師管ニ屬スル部分ト雙方ニ設クルヲ云フ

第二十五條 各鎮臺ニ屬スル歩兵ハ其師管徴兵區限

リ其他ノ諸兵ハ軍管徴兵區限リ之ヲ徴集ス但現役徴員及ヒ補充員不足スルトキハ歩兵ハ他ノ師管其他ノ諸兵ハ他ノ軍管徴兵區ヨリ之ヲ補フ

現役徴員及ヒ補充員不足スルトキハ本條ニ據リ歩兵ハ他ノ師管其他ノ諸兵ハ他ノ軍管徴兵區ヨリ之ヲ補ヒ仍ホ不足スルトキ第十七條ノ諸項ニ及フモノトス本條但書ニ云フ他ノ師管ハ軍管内外ヲ問ハサルノ嫌ナキニアラスト雖モ若シ歩兵徴員ノ不足ヲ他ノ軍管ニ包轄スル師管徴兵區ヨリ補フトキハ均ク他ノ軍管徴兵區ヨリ補フモノニシテ事實ニ於テハ其他ノ諸兵ト異ナルコトナク且本文鎮臺ニ屬スル歩兵ハ其師管徴兵區限リ云々ノ文意ニ依リ之ヲ考フレハ其軍管内ニ於テ他ノ師管タルコト疑ヲ容レサルナリ

海軍及ヒ近衛ノ諸兵ハ各軍管徴兵區ニ配當シテ全國ヨリ徴集ス

海軍兵ハ第八條第二項ニ示ス如クナルヲ以テ海濱嶋嶼ヲ包轄セサル府縣徵兵區ヨリ之ヲ徵集スルコトナシ

第二十六條 抽籤ハ各府縣徵兵區限リ之ヲ行フモノトス

府縣徵兵區ニ於テハ其區壯丁ノ身體検査終リタル後兵役ニ適スヘキ人員ノ身材職業ニ從ヒ兵種ヲ區別シ番號ヲ定メ抽籤セシム

本條第二項ハ府縣徵兵區ニ於テ検査合格ノ人員中假令ハ歩兵ニ適スルモノ二百人ナルトキハ第一番ヨリ第二百マテヲ歩兵ノ籤トシ騎兵ニ適スルモノ五十人ナルトキハ第一番ヨリ第五十番マテヲ騎兵ノ籤トシ

其他皆此ノ如ク番號數ヲ定メ兵種毎ニ籤ヲ別ナテ抽カシムルヲ云フ

第二十七條 籤ハ一郡區毎ニ籤丁ノ人撰ヲ以テ一名乃至三名ノ總代人ヲ出シテ之ヲ抽カシム

籤丁ハ徵兵検査ニ合格シ籤ヲ抽クヘキモノヲ云フ
抽籤總代人ハ籤丁及ヒ其郡區内外人ノ別ナク此撰ニ當ルコトヲ得

第二十八條 抽籤ノ法ハ籤丁ノ數ニ應シ籤札ニ兵種番號ヲ記シ籤箱ニ納レ籤簿掛ノ面前ニ置キ籤丁名簿ノ順序ニ從ヒ其氏名ヲ呼ビ總代人ニ之ヲ抽カシメ籤簿掛ハ抽籤ノ正否ヲ監シ抽キ舉クル所ノ番號ヲ高聲ニ呼ハシメ其籤札ヲ受取り籤簿ニ氏名番號

ヲ記シ籤札ハ總代人ニ交付ス

籤丁名簿ハ籤ヲ抽クヘキ人名ヲ記シ抽籤ノ事務ニ供スルモノ籤簿ハ總代人ノ抽キ擧クル所ノ番號及ヒ氏名ヲ記シ割符ト割印ヲナスモノナリ

第二十九條 籤ハ其番號現役徵員ノ數ニ滿ツル迄ヲ以テ現役籤ト爲シ其餘ヲ以テ補充籤ト爲ス

検査合格人員中假令ハ歩兵ニ適スルモノ二百人ニシテ歩兵現役徵員五十人ナルトキハ第一番ヨリ第五十番マテヲ現役籤トシ第五十一番ヨリ第二百番マテヲ補充籤トス其他皆此例ニ同シ

第五章 補充員及ヒ豫備徵員

此章ハ補充員及ヒ豫備徵員ノ成立年限義務等ニ

係ル諸則ヲ掲ク

第三十條 補充員ハ補充籤ヲ抽キタル者ヲ以テ一個年間之ニ充ツ其期限内現役兵缺員スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ其番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ徵集ス

補充員ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スル時ニ於テ仍ホ之ヲ徵集スト雖モ專ラ平時ニ在テ現役兵ノ缺員ヲ補フ爲メニ設クルモノナリ

補充員ハ其所要ニ應シ番號ノ最低キモノヨリ順序ニ徵集シ番號ヲ最高キモノニ至テ終フ

補充員期限ノ起算ハ第四十二條ノ例ニ同シ

補充員ノ數ハ現役徵員五分ノ二ヨリ少カラサルモ

ノトス

補充員ノ數ハ現役徵員五分ノ二ヨリ少カラサルモノトス故ニ其年ノ徵員不足シ補充員ノ數現役徵員五分ノ二ニ滿タサルトキハ第二十五條前項但書ニ據リ步兵ヲ他ノ師管其他ノ諸兵ヲ他ノ軍管ヨリ補ヒ仍ホ五分ノ二ニ滿タサルトキハ第十七條第一項相當ノモノヨリ順次ニ五分ノ二ニ滿ルマテ徵集ス

其現役徵員五分ノ二ヨリ少カラサルモノトシ人員ノ最少限ヲ定メルハ第十七條ニ相當スルモノヲ徵集スルノ標準トナスモノナリ

第三十一條 補充員ニシテ其期限内徵集ノ命ナキ者及ヒ第十八條第三項ノ生徒ニシテ二個年以上ノ課

程ヲ卒リタル者ハ年齢滿二十七歳迄之ヲ第一豫備徵員ト爲ス

第一豫備徵員ハ戰時若クハ事變ニ際シ夥多ノ兵員ヲ要スルトキ徵集シ軍役ニ充ツルモノナリ第二豫備徵員亦同シ唯徵集ノ遲速ヲ異ニスルノミ

第十八條第三項ニ當ル官立大學校及ヒ之ニ準スル官立學校本科生徒ニシテ滿二十歳トナル年ニ於テ既ニ二個年以上ノ課程ヲ卒リタルトキハ本條ニ據リ初メヨリ第一豫備徵員ト爲ス

年齢滿二十七歳マテト定メタルモノハ常備兵役期限ニ基クモノナリ

第三十一條 第十七條ニ當ル者ニシテ其年徵集ノ命

ナキ者第十八條第二十一條ニ當ル者ニシテ七個年間に
其事故ノ存スル者及ヒ第一豫備徵員ヲ終リタル者
年齢滿三十二歳迄ハ之ヲ第二豫備徵員トス但第十
七條ニ當ル者第二豫備徵員ト爲リタル後六個年間に
ニ該條ニ掲クル資格ヲ失ヒタル者ハ現役ニ徵集ス
第十八條第二十一條ニ當ルモノニシテ七個年間に其
事故止ニ更ニ第十七條ニ相當スルモノハ該條ニ據リ
一個年徵集猶豫ノ後第二豫備徵員トス第十七條ニ當
リ第二豫備徵員トナリタル後六個年間に該條ニ掲ク
ル資格ヲ失ヒ更ニ同條ノ項目ニ相當スルモノ亦同シ
第十八條ニ當ルモノニシテ七個年間に其事故止ニ更
ニ同條ノ項目及ヒ第二十一條ニ相當スルモノハ通シ

テ七個年徵集猶豫ノ後第二豫備徵員トス第二十一條
ニ當ルモノニシテ七個年間に其事故止ニ更ニ同條及
ヒ第十八條ニ相當スルモノ亦同シ
第十七條ニ當リ第二豫備徵員トナリタル後六個年間に
ニ該條ニ掲クル資格ヲ失ヒ更ニ第十八條及ヒ第二十
一條ニ相當スルモノハ通シテ六個年徵集猶豫ノ後再
ヒ第二豫備徵員トナス
本條ニ掲クル第十八條中第三項官立大學校及ヒ之ニ
準スル官立學校本科生徒ハ含有セス(第三十一條ヲ參
照スヘシ)
年齢三十二歳マテト定メタルモノハ後備兵役期限ニ
基クモノナリ

第十七條ニ當ルモノ第二豫備徵員トナリタル後六個
 年間ニ該條ニ掲クル資格ヲ失ヒタルトキハ現役ニ徵
 集ストアルハ第二豫備徵員ノ資格ヲ以テ徵集スルニ
 アラサルノ謂ヒニシテ第四十條第四十一條ノ如キ直
 ニ現役ニ徵集スルモノニアラス更ニ尋常徵員トシテ
 徵集スルノ意ナリ故ニ抽籤番號ノ高低ニ因リ再ヒ第
 二豫備徵員トナルモノアルヘシ
 本條但書ニ當ルモノ届出方第三十六條ニ詳ナリ

第三十三條 豫備徵員ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員

ヲ要スルトキ之ヲ徵集ス但第二豫備徵員ヲ徵集ス
 ルハ後備兵ヲ召集スルトキニ限ル

戰時若クハ事變ニ際シ第二豫備徵員ヲ徵集スルハ後

備兵ヲ召集スル時ニ限ルト雖モ第一豫備徵員ハ豫備
 兵召集同時又ハ之ニ次キ徵集スルコトアリ

第六章 雜則

此章ハ徵兵ニ關スル諸種ノ例規及ヒ罰則ヲ掲ク

第三十四條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齡滿十七歲

トナル者ハ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ戶
 主本人戸主ナルレハ自身以下ヨリ本人ノ氏名族籍
 主戸主アルモノ皆同シ住所誕生ノ年月日及ヒ職業ヲ記載シ本籍ノ戸長ニ
 届出ヘシ

本條ハ國民兵役ニ服スルノ届出ナリト雖モ其届出期
 限前ニ於テ既ニ年齡十七歲以上トナルモノハ滿十七
 歲トナル月ヨリ國民兵ノ義務ヲ帶ルモノニシテ又本

條ノ届出チナスモ未タ十七歳ニ滿クサルモノハ滿十
七歳トナルノ月ニ至リ初メテ其義務ヲ生スルモノト
ス

第三十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齢滿二十歳

トナル者ハ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ書
面ヲ以テ戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ届出ヘシ若シ届出
ノ後翌年四月十日迄ニ異動ヲ生シタルトキハ其事
由ヲ詳記シ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ届出ヘシ但二
十歳未滿ニシテ現ニ服役スル者ハ届出ルニ及ハス
翌年四月十日ヲ過キ第十七條ニ當ルモノ其資格ヲ失
ヒ及ヒ第十八條第十九條第二十一條ニ當ルモノ其事
故止ムトキハ第三十六條本文ノ例ニ據ル

本條但書ニ云フ現ニ服役スル者トハ滿十七歳以上二
十歳未滿ニシテ第十條第十一條ニ據リ現役ニ在ルモ
ノ又既ニ現役ヲ終リ豫備役ニ在ルモノ等ヲ云フ

第三十六條 第十七條ニ當ル者其資格ヲ失ヒ第十八

條第十九條第二十一條ニ當ル者其事故止ミ及ヒ第
三十二條但書ニ當ル異動ヲ生シタルトキハ其事由
ヲ詳記シ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ戸主
ヨリ本籍ノ戸長ニ届出ヘシ但九月十六日以後翌年
四月十日以前本條ニ當ル者ハ三日以内ニ本籍ノ戸
長ニ届出ヘシ

第三十五條ニ掲グル定期ノ届出チナシタル後翌年四
月十日マテニ第十七條ニ當ルモノ其資格ヲ失ヒ及ヒ

第十八條第十九條第二十一條ニ當ルモノ其事故止ム
トキハ第三十五條定期届出後ノ例ニ據ルヘキモノニ
シテ本條ハ第三十五條定期ノ届出チナシタル翌年四
月十一日以後徴集猶豫ノ期限間ニ其事故止ミタルモ
ノ及ヒ第三十二條但書ニ當ルモノニ適用スルノ例ト
ス

第三十七條 他ノ府縣ニ寄留スル者其地ニ於テ徴集
ニ應セント欲スルトキハ其地ニ居住スル者主_戸ヲ以
テ證人ト爲シ八月十五日迄ニ戸主ヨリ其旨ヲ本管
廳ニ願出可シ但第三十五條ノ届書ハ寄留地ノ戸長
ニ差出可シ

本條ニ掲ケル他ノ府縣ハ軍管師管各徴兵區内外ノ區

別ナシ又證人ハ其他在籍ノモノト寄留ノモノトヲ問
ハス

第三十八條 現役兵在營在艦中ハ定額ノ日給ヲ與ヘ
服食等ヲ給ス

日給ハ日算ヲ以テ定メタル給料ナリ

服ハ陸海軍定制ノ被服及ヒ必要ノ衣類寢具等ヲ云
フ

食餌ハ現物ヲ以テ給ス

第三十九條 疾病或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ
難キ者ハ其事由ヲ詳記シ其疾病ニ罹ル者ハ醫師ノ
診斷書ヲ添ヘ即日戸長ニ届出可シ其事故止ムトキ
亦同シ

本條ハ專ラ現役徵員補充員等初メテ入營スルトキチ
云フ豫備徵員及ヒ國民兵ノ徵集ニ應スルトキ亦此例
ニ據ル
犯罪ハ刑事被告人トナリ裁判未決既決ノモノチ併セ
云フ

第四十條 第三十九條ニ掲クル者其年九月一日ニ至
ルモ事故猶止マサルトキハ之ヲ翌年回ノ者ト爲シ
翌年更ニ検査ヲ遂ケ他ノ徵員ニ先チ徵集ス可シ但
戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ翌年徵
集ノ期ヲ待タス徵集ス

疾病或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キモノ事故
止ムトキハ勿論入營スヘシト雖モ其事故延ヒテ九月

一日ニ至ルモ猶止マサルトキハ之ヲ翌年ニ回シ尋常
徵員ニ先チ直ニ現役ニ徵集ス
翌年徵集ノ期ニ至ルモ事故仍ホ依然タルトキ及ヒ其
犯罪既ニ判決ヲ經禁錮中又ハ輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ
付セラレ其期限間ナルトキハ更ニ第十八條第六項第
八項第九項等ニ據リ徵集ヲ猶豫ス

第四十一條 兵役ヲ免カレンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾
病ヲ作偽シ其他詐偽ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ
潜匿シタル者又ハ正當ノ故ナク検査所ニ參會セス
又ハ第三十五條第三十六條ノ届出ヲ怠リタル者ハ
抽籤ノ法ヲ用ヒス直ニ現役ニ徵集シ又ハ翌年検査
ヲ遂ケ第四十條ニ掲クル者ニ先チ抽籤ノ法ヲ用ヒ

ス徴集ス

本條前段ニ抽籤ノ法ヲ用ヒス直ニ現役ニ徴集ストア
リ其後段ニハ第四十條ニ掲クルモノニ先チ抽籤ノ法
ヲ用ヒス徴集ストアリテ本年徴集スルト翌年徴集ス
ルトニ於テ其徴集ノ法相異ナルカ如シト雖モ然ルニ
アラス前年第四十條ニ當リ本年回トナルモノアルト
キハ前段ノモノト雖モ均ク之ニ先チ抽籤ノ法ヲ用ヒ
ス直ニ現役ニ徴集スルモノナリ

第四十二條

常備現役年期ノ計算ハ總テ其入營年ノ

四月二十日

第四十一條ニ掲シヨリ起算シ豫備役及ヒ

後備役年期ノ計算ハ其定例編入ス可キ年ノ四月二

十日ヨリ起算ス但禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ

付セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期中ノ日數及ヒ逃

亡中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス

第四十一條ニ掲クルモノト雖モ豫備役後備役年期ノ

計算ハ定例編入スヘキ年ノ四月二十日ヨリ起算ス

禁錮ノ刑ニ處セラレタルモノハ普通刑法陸海軍刑法

ニ據ルノ區別ナシ

監視ニ付セラレタルモノハ刑法第四十一條ニ據リ行

政ノ處分ヲ以テ假ニ監視ヲ免セラレタルモノハト雖モ

監視ノ期限間ハ仍ホ之ヲ服役年期ニ算入セス

第四十三條

第三十四條第三十五條第三十六條第三

十九條ノ届出ヲ爲シ、ル者及ヒ検査時日ノ指定ヲ

受ケ正當ノ故ナク其場所ニ參會セサル者ハ三圓以

上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 第三十五條 第三十六條 第三十九條ノ届出
チナサ、ルモノ及ヒ正當ノ故ナク検査所ニ參會セサ
ルモハノ義務ニ背キ令ヲ輕スルノ責チ免カル可カラ
ス故ニ之ヲ懲戒スルニ罰金ヲ科スルモノナリ
第三十五條ノ届出ハ國民兵役ニ服スルノ届出ナレハ
其届出期限前年齢滿十七歳以上ニ至リ第十條若クハ
第十一條ノ志願チナシ既ニ現役ニ在ルモノハ第三十
五條ノ届出チナサ、ルモ本條ヲ以テ論スヘキモノニ
アラス

第四十四條 兵役ヲ免カレンカ爲メ逃亡シ又ハ潜匿
シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐偽ノ所

爲アル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓
以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

逃亡潜匿若クハ身體ヲ毀傷シテ疾病ヲ作爲シ其他詐
偽ノ所爲ヲ用ヒ兵役ヲ免カレンコトヲ圖ルモノハ道
徳ヲ紊ルモノニシテ其情其害第四十三條ニ掲グル諸
般ノ届出チナサ、ルモノ及ヒ検査所ニ參會セサルモ
ノ、比ニアラス故ニ其刑ヲ重クシ重禁錮ニ罰金ヲ附
加スルモノナリ

第四十五條 本令施行ノ爲メ要スル規則ハ別ニ布達
ヲ以テ之ヲ定ム

本令ヲ施行スルニ要スル規則ハ行政事務ニ屬スルヲ
以テ別ニ布達ヲ以テ定ムルモノトス

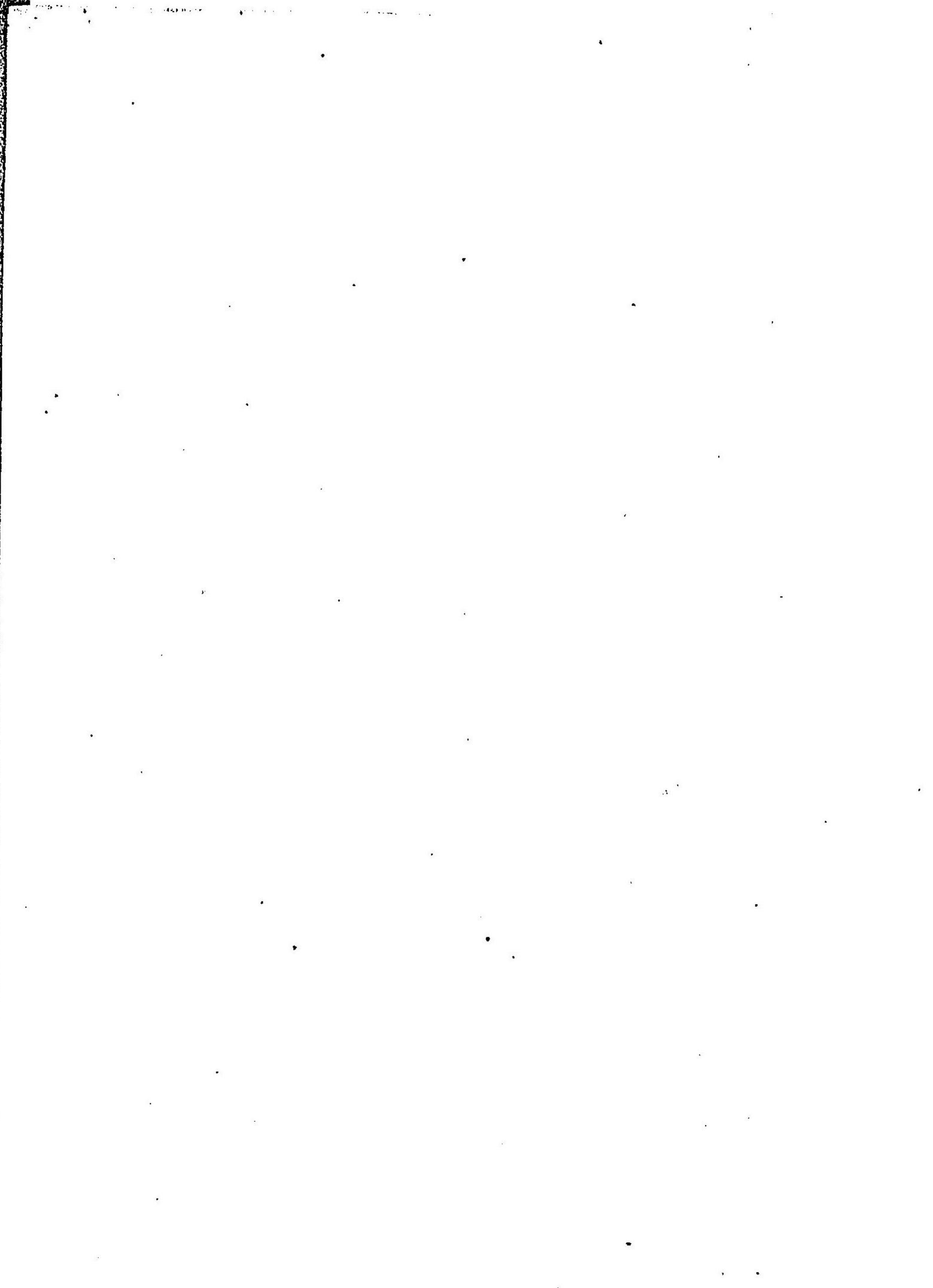
第五第		第四第		第三第	
第十第	第九第	第八第	第七第	第六第	第五第
阿波讚岐伊豫土佐	安藝備後備中出雲石見隱岐周防長門	攝津ノ内郡、神戶區、西成郡、葛原郡、武庫郡、川邊郡、有馬郡、播磨淡路若狹丹波丹後但馬美作備前因幡伯耆	那賀郡、伊都郡、有田郡、日高郡、東牟婁郡、西牟婁郡、山城大和河内和泉近江伊賀	尾張ノ内郡、能登郡、越前郡、飛騨郡、越前郡、井郡、丹羽郡、美濃加賀	尾張ノ内郡、名古屋區、愛知郡、葉栗郡、中濃郡、信濃ノ内郡、西筑摩郡、南伊弉郡、北安曇郡、三河遠江駿河伊勢志摩紀伊ノ内郡、牟婁郡、北牟婁郡

第六第		第七第
第十一第	第十二第	
肥後日向大隅薩摩沖繩	豊前豊後筑前筑後肥前壹岐對馬	渡嶋後志石狩天塩北見膽振 日高十勝釧路根室千嶋

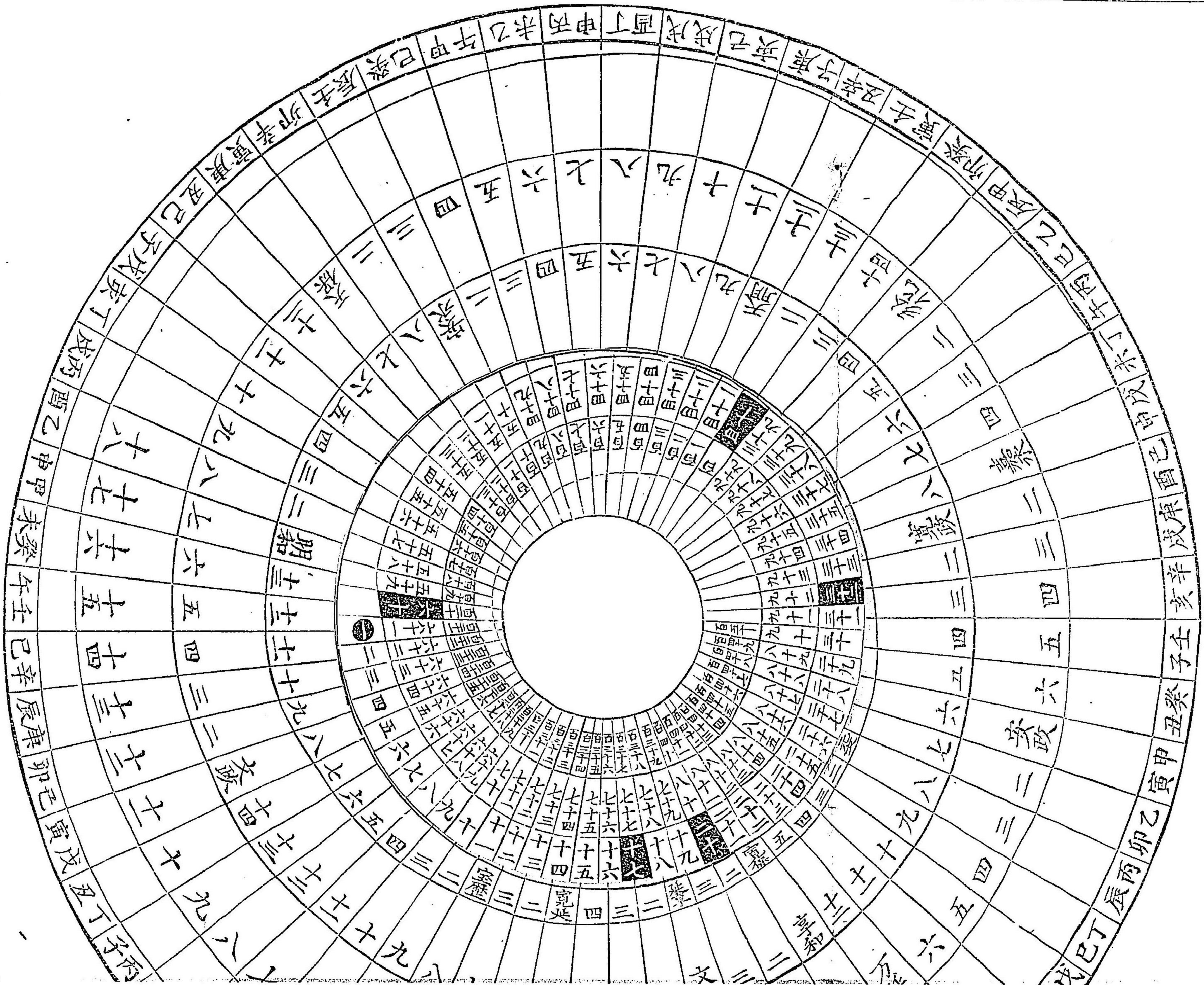
軍管ハ軍團ノ諸兵師管ハ師團ノ諸兵ヲ徵集ス
 徵兵ハ現今沖繩縣ニ之ヲ行ハズ北海道ニ於テハ第七軍管
 ノ鎮臺ヲ設クル迄函館縣管下函館江差福山三個所ヲ限リ
 之ヲ行ヒ第二軍管ノ管轄ニ屬セシム

改正
徵兵令註釋正誤

二	丁	十行目「冠」ハ「冠」ノ誤
八	丁	四行目「持」ハ「特」ノ誤
十六	丁	二行目「公立學校」ノ下「ハ」行
同		十二行目「每軍」ハ「海軍」ノ誤
二十九	丁	六行目「モ」ニ「ノ」下「シ」ヲ脱ス
同		八行目「名項」ハ「各項」ノ誤
三十九	丁	十一行 本文ト平等ニセシム二字下クヨス 〜キノ誤
四十二	丁	三行目「主」ハ「生」ノ誤
四十三	丁	七行目「云」フ「ノ」下「」ヲ脱ス
五十三	丁	三行目「モ」ノトス「ノ」下「」ヲ脱ス
五十七	丁	十行目「番號」ヲ「番號」ノ誤
六十三	丁	七行目「割書」戸主「ノ」下「アル」ノ上「ト」ヲ脱ス
七十二	丁	四行目「モ」ハ「」ハ「モ」ハ「」ノ誤



年齢計算表



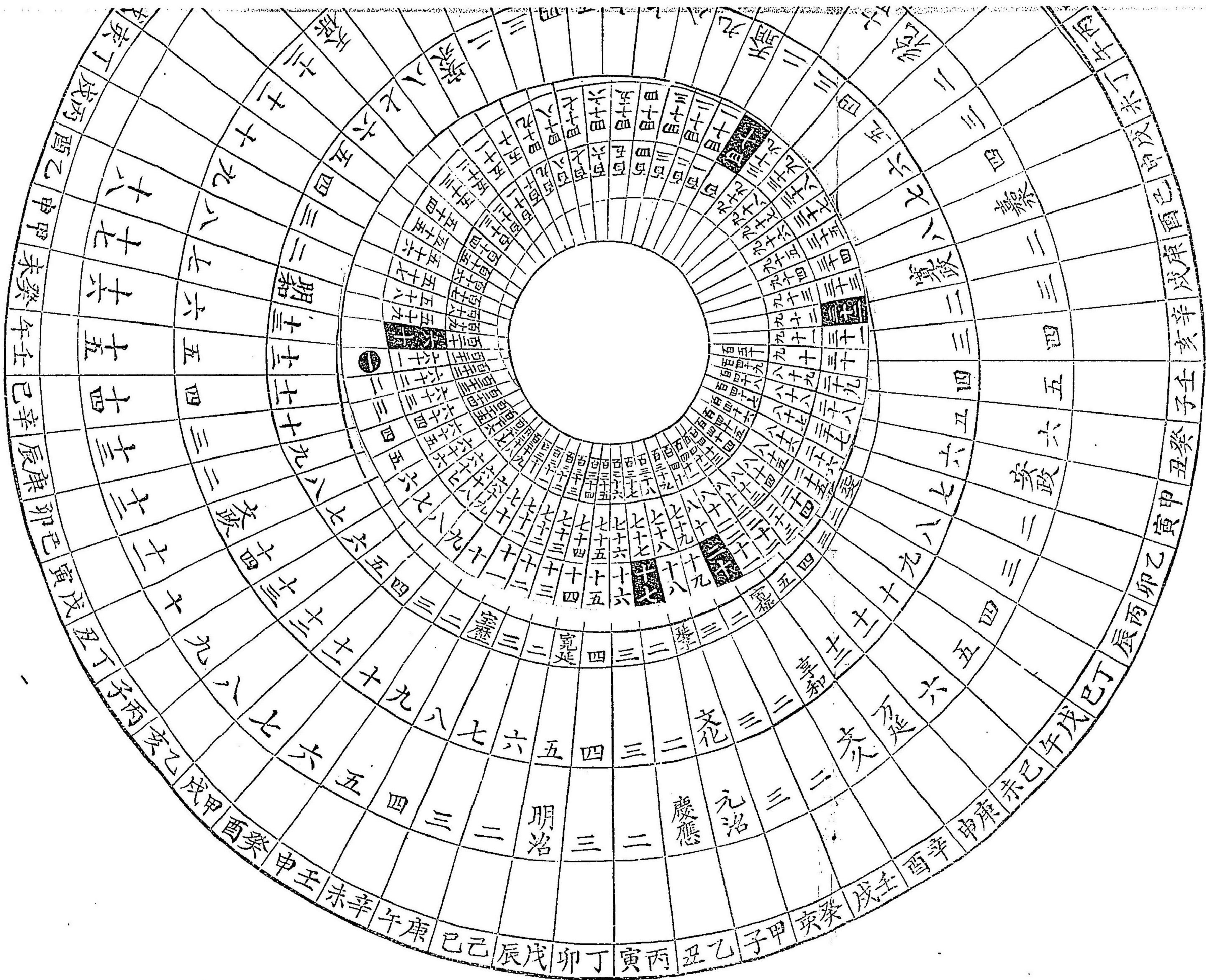
備

某年月生ノ者何年何月ニ幾歳トナルヤヲ覓メント欲スルトキハ本表中生レタル年ト計算スルトキノ年ト
照シテ計算スルモノニシテ仮令ハ元治元年甲子年五月生ノ者ヲ明治十七年二月ニ於テ何年何月ニ満二十歳
ノ野ヲ明治十七年ノ野ニ合シ生レタル年ノ野ニ對スル動表ノ年數二十一ナルトキハ是ヨリ生レタル年ト
ヘ生レタル年ノ八ヶ月ト今年ノ二ヶ月ヲ合計シ十ヶ月トナルモノヲ加レハ十九歳十ヶ月トナル則チ明治十

考

知ルナリ○生年本表初段ノ區畫ニアルキハ動表初段ノ區畫ニ第二段ニアルトキハ動表第二段ノ區畫ニ對
テ計算スル年ノ區畫ニ合ハスハ生年孰レノ區畫ニアルニ拘ハラサルナリ

齡計算表



〇幾歳トナルヤチ宛ノント欲スルトキハ本表中生レタル年ト計算スルトキノ年トヲ見認ノ之ヲ動表年數ノ區畫ニ
 シテ仮令ハ元治元甲子年五月生ノ者ヲ明治十七年二月ニ於テ何年何月ニ滿二十歳トナルヤチ計算セシムルハ動表
 〇合シ生レタル年ノ對ニ對スル動表ノ年數二十一ナルトキハ是ヨリ生レタル年ト今年トヲ控除シ十九トナルモノ
 ト今年ノ二ヶ月ヲ合計シ十月トナルモノヲ加レハ十九歳十月トナル則チ明治十七年四月ニ滿二十歳トナルチ
 以ノ區畫ニアルトキハ動表初段ノ區畫ニ第二段ニアルトキハ動表第二段ノ區畫ニ對照シテ計算スヘシ〇動表ノ
 〇ハスハ生年孰レノ區畫ニアルニ拘ハラサルナリ

明治十七年一月廿四日御届
同 二月十四日出版

定價金 洋一圓五錢

著 述 人

秋田縣士族

青 柳 敏 吉

麴町區永田町二丁目
十四番地

出 版 人

東京府士族

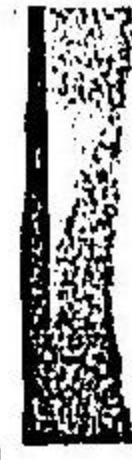
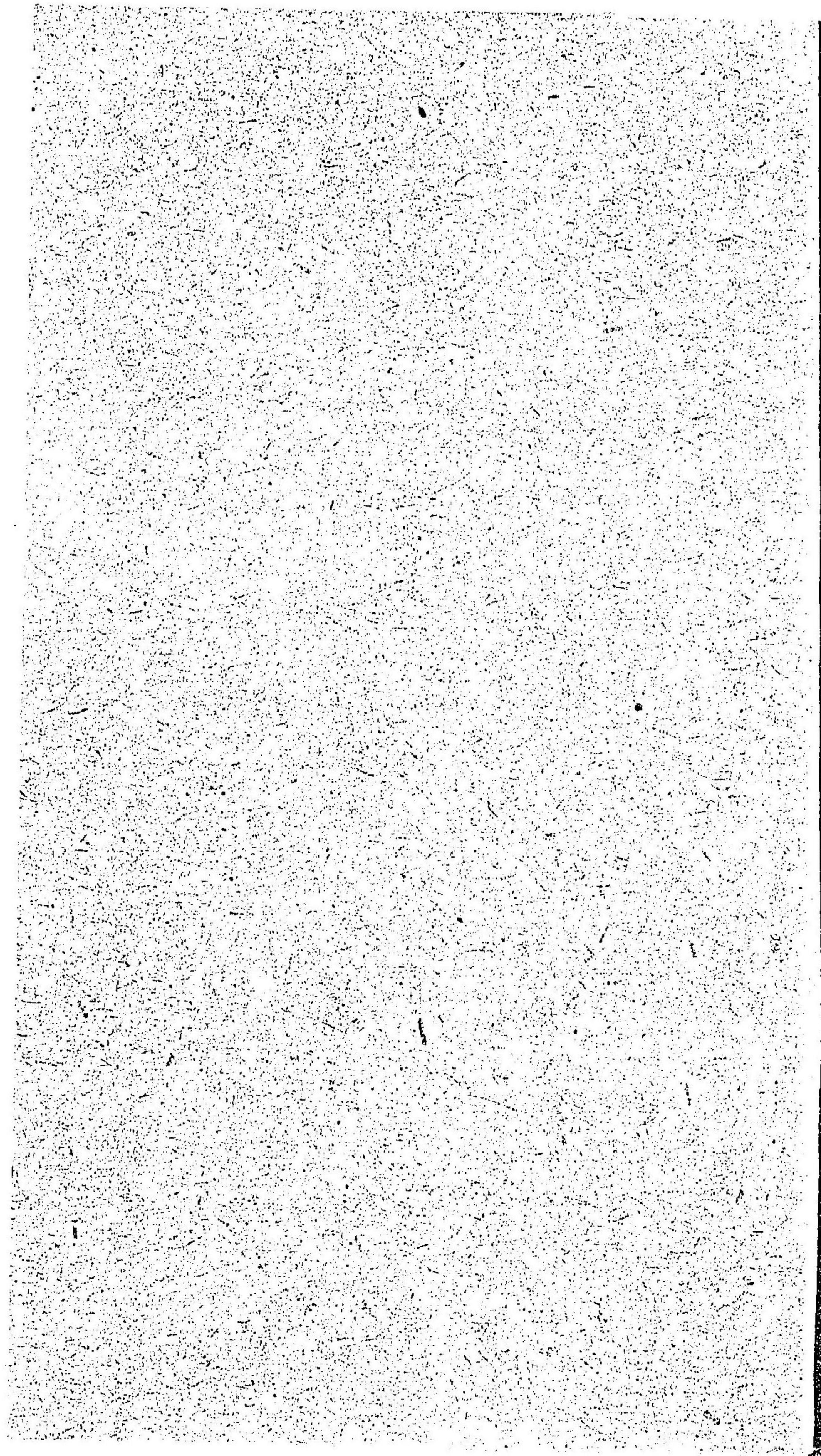
小 山 保

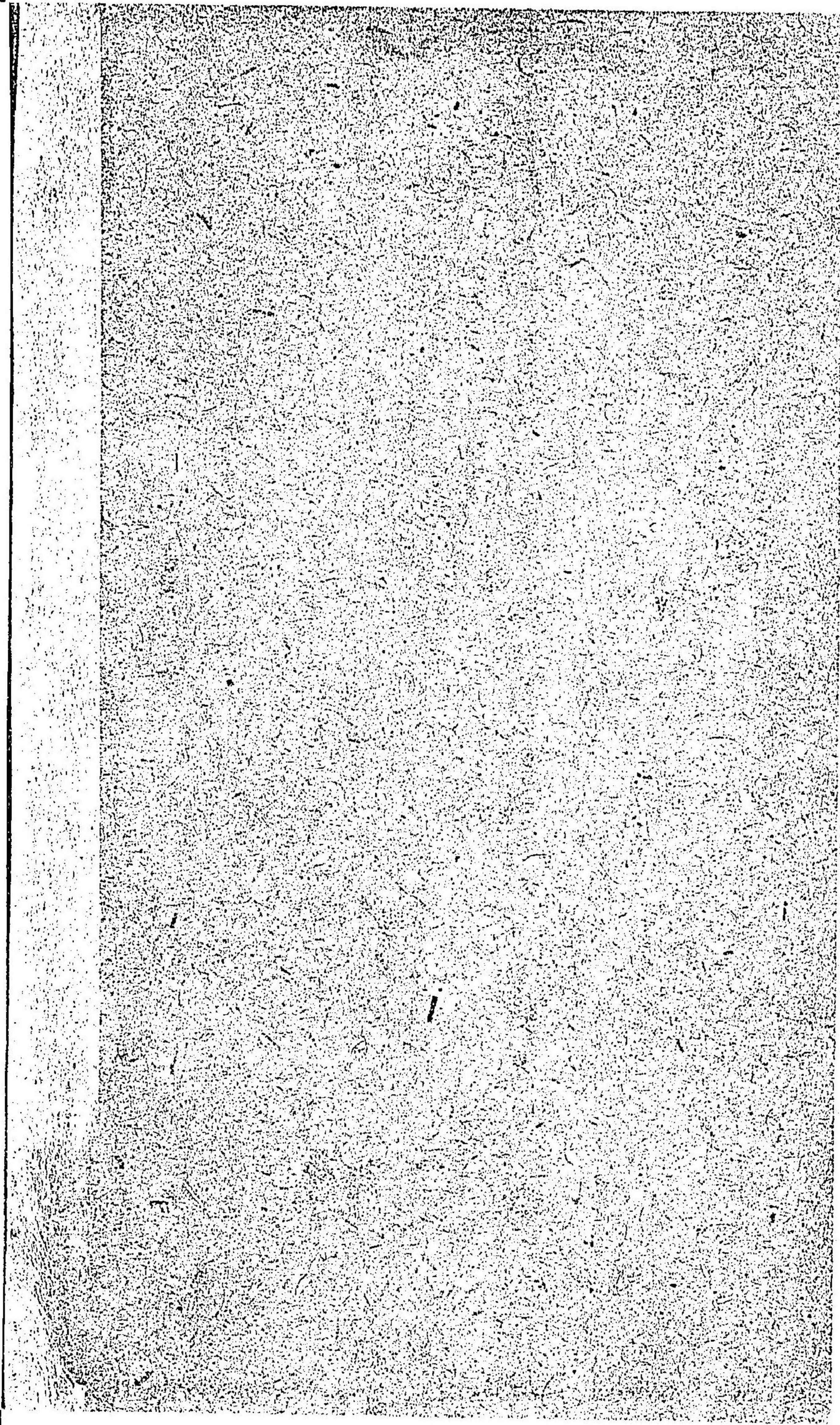
芝區琴平町二番地

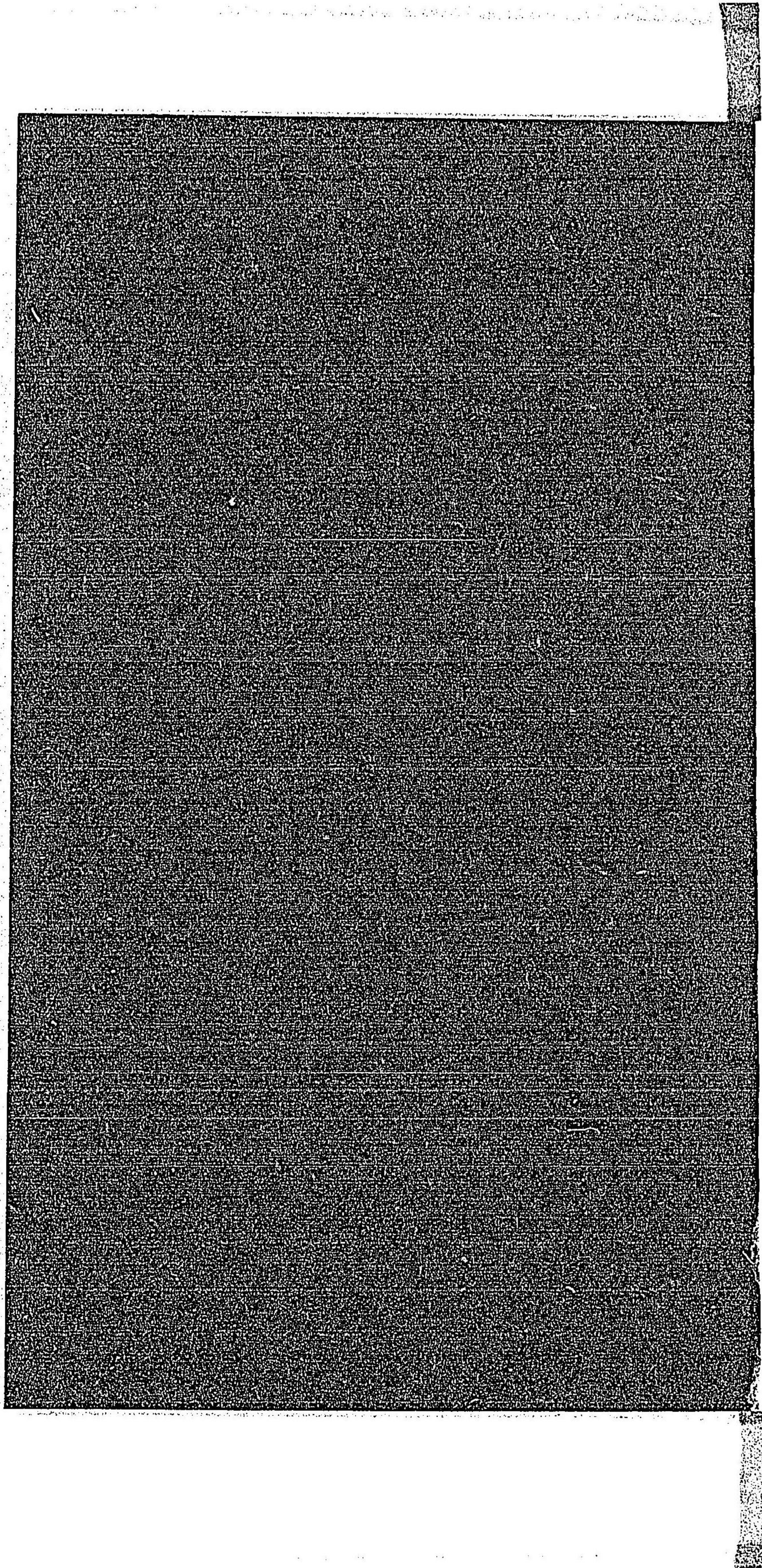
發 兌

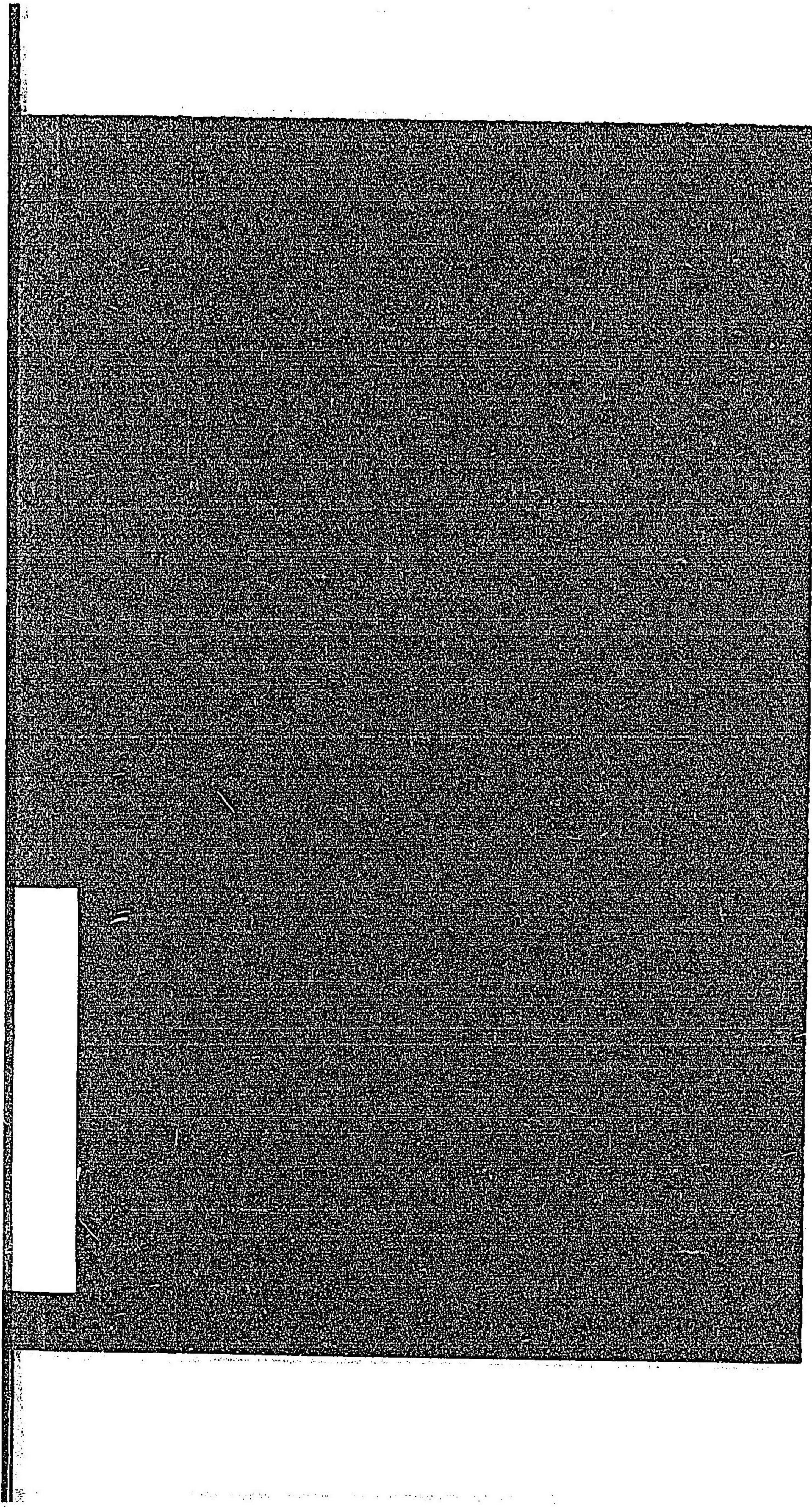
東京虎ノ門外琴平町

靜 霞 堂









特46

555

徴兵令注釈

国立国会図書館

038911-000-8

特46-555

改正徴兵令註釈

青柳 敏吉/著

M17.2

BCC-0132



